

## 平成27年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第2回）【概要】

日時：平成27年11月10日（火）午前10時から正午まで

場所：千葉県教育会館6階 会議室604

### 1 出席委員（敬称略・名簿順）

鈴木幸子，田山正人，山本善彦，宇野輝夫，友杉修三，雑賀ますみ，高橋英雄，佐久間勝彦，  
町田義昭（委員長），東條三枝子（副委員長），湯井隆子，鳥井みゆき，小林公人，中村美彦

### 2 次第

（1）開会のことば

（2）県教育委員会あいさつ

（3）報告

①平成27年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第1回）の概要について

②平成28年度千葉県公立高等学校第1学年入学者選抜実施要項について

③平成28年度千葉県公立高等学校入学者選抜における選抜・評価方法の公表について

④平成27年度全国高等学校入学者選抜改善協議会の資料について

（4）協議

①平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

②平成28年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

（5）閉会のことば

### 3 協議内容

（1）平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

- ・中学校としては教育課程，授業の確保という意味から高校入試の日程は遅い方がよいのでB案が良い。
- ・高校としては首都圏の入学者選抜全体の動向や中学生の授業確保等の点から考えるとB案がより良い。後期の発表が遅くなるので，教育課程を組んだり，人事の調整をしたりという点で苦しいところもある。
- ・私学としてはA案が望ましい。公立で決めることなのでどちらでも対応しなくては行けないが，私学は公立高校の発表を踏まえて2次試験を行い入学者を確保して次年度に備える所もあるので，B案だと2次試験等でかなり窮屈な形で対応せざるを得ない。
- ・B案が良い。A案は前期受付の時点が私立の合格発表であり，子どもたちが落ち着かない。A案だと早めに終わるので，卒業式の日程等に重ならない，早めに進路が決まる利点はある。
- ・A案は卒業式までの日程が十分取れることはありがたいが，日程が早くなっているので教育課程の面で問題がある。B案は卒業式と2次募集，後期と国立の入試が重なることが心配される。
- ・B案で授業時数を確保しながら学校行事の大事な卒業式を終わらせたい。B案で是非お願いしたい。
- ・事務局としてA案，B案を基本としながら修正案も含めて検討させていただき，教育委員会会議で決定したい。

（2）平成28年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

- ・事務局から平成27年3月に実施した受検動向調査の結果分析について報告を行った。
- ・受検前は結果を見て後期の学校を決めようと思っていた子どもたちの多くが前期と違う学校を受けているという結果になっているようである。
- ・全体として全受検者の7分の1くらいが2回チャンスがあることによって高校を変えることができ，メリットを感じていると想像できるが，中学校で授業が厳しい状況にあるので，その兼ね合いを考えて

今後の方向を検討してもらえるとありがたい。

・前期の不合格者でまた同じ学校を受けた1,689名の生徒はわざわざ2回受けていると受け取れる。前期の結果を見て後期の学校を決める生徒と前後期で違う学校を受ける予定だった生徒、1,280名と965名の生徒は複数回の受検機会を意識した受検をしていると受け取れる。

・今年度前期選抜枠が100%になるが、職業に関する学科の受検生で不合格になった生徒はもう専門学科は受けられず、普通科をやむを得ず受けることになる。その生徒の意識がかなり違ってくるのではないか。今年度も同じ調査をやる時に全く同じではなく、100%にしたためにどう影響が出てきたかが調査の中でわかるような手法があればお願いしたい。

・高等学校長協会から平成27年7月に実施した入学者選抜に関するアンケートの結果について報告を行った。

・高等学校長協会のアンケートの自由記述欄で多くの校長が受検機会の複数化について矛盾点を指摘している。全国の状況等をもって2回やるのが良いみたい結論づけるのは軽率だと思っている。今年度の調査を同じような設問でやるとしても生徒の内心まで聞かないと有効なデータにはなりにくい面があるのではないか。

・今年度専門学科の前期選抜枠が100%になるが、この大きな変更が受検動向にどのような影響を与えたか是非分析していただきたい。また、千葉県の入試制度の経緯を全体でどう振り返るかという視点や大学で新しい学力観、思考力・判断力・表現力等をどうみるかという入試がこれから始まっていくのでこれまでと違う視点で検討していく必要がある。

・入試制度についてはタイムラグがどうしても起こるので、今後大きな変更をする場合には県民への理解を広めるよう周知の期間、周知の方法を緻密に検討してもらいたい。

・国立工業高等専門学校との日程調整や制度の運用面でうまく取り計らってもらえるとありがたい。

・複数回か一本化かについては、一本化ありきではないという認識を委員の皆様も持ってもらいたい。

今後、今年度もう一度調査をしてその方向を見ながらさらに検討していく。

・次年度以降検討するにあたっては、先行して一本化した都道府県の地域の特色や課題、現状、動向等を情報として把握して併せて議論してもらいたい。

・専門学科100%を打ち出したという大きな変革なので、動向をもう一回きちんと分析していく中で次年度に生かすという方向性で、細かい分析をしてもらいたい。

・地域の特性は十分に検討の課題になると思うので是非検討してもらいたい。

・まず子どものために常に考えて、1番大事なことは、子どもたちができるだけ自分の望んだ学校へ進学をするということが最大の目的であり、その方策を考えなければいけない。不本意入学や浪人を出さず、子どもたちが自分の意志で決まると胸を張って言えるような入試というものが、難しいけれども最終目標になる。